



会津若松市の福島医大会津医療センターが院内に骨粗しょう症の専門ケアチーム「EYES BONES (アイズボーンズ)」を二〇一五(平成二十七年)年に設置して六年目を迎えた。「ほね元気外来」「入院患者への介入」「地域連携体制の構築」を活動の柱に据え、高齢化が進む会津地域の懸案に立ち向かっている。(会津若松支社・鈴木 康允)

■多職種で構成

チームは同センター 八人の看護師、理学療 整形外科・脊椎外科学 法士など、院内多職種 講座の岩淵真澄教授が の有志で構成する。 委員長を務め、日本骨 岩淵教授が二〇一〇 粗しょう症学会が認定 年にへき地医療支援で

会津医療センターの 骨粗しょう症チーム

奥会津地域を訪れたと痛感。地域ぐるみで 際、骨密度を測定する の骨粗しょう症の治療 機器や治療のために処 予防をしようと結成 方する薬が遅れている した。

高齢化の中 希望に

■検診で早期発見

ほね元気外来は予防 用の検診外来で、自覚



岩淵教授(前列中央)らでつくるEYES BONES (アイズボーンズ)のメンバー

■検診で早期発見
ほね元気外来は予防用の検診外来で、自覚

■介入で再発ゼロ

治療するのは全国的に 見てもまれだ」と話す。 岩淵教授は「日本全 体でも骨粗しょう症の 治療率は約20%と低

■検診で早期発見
ほね元気外来は予防用の検診外来で、自覚

■介入で再発ゼロ
入院患者への介入は同センターの整形外科・脊椎外科、血液内科・骨折外来、血液内科に入院した患者を対象に行っており、二〇一七年七月から二〇二〇年(令和二年)十二月まで、延べ二百六十二人に介入治療をしており、介入治療を受けた患者の新規骨折例は出していないという。骨粗しょう症による骨折の既往がある患者やFRAX(フラックス)という骨折リスクを計算するツールで一定のリスクがあると判断された患者に投薬などの治療をしている。岩淵教授は「日本全体でも骨粗しょう症の治療率は約20%と低い。かかりつけ医と連携を深めて、会津での治療率を100%まで引き上げたい」と話し、地域連携体制の構築にも力を注ぐ。会津若松医師会内に骨粗しょう症委員会を創設するなど、地域ぐるみでの骨粗しょう症の治療・予防を目指す。

高齢化率が全体的に高く、一部の自治体では50%を超える会津地域では、骨粗しょう症は地域全体の課題といえる。課題と正面から向き合うチームの今後に期待したい。